

平成26年度 ～君の汗 輝く一滴 勝利の雫～
全国高等学校総合体育大会

煌めく青春 南関東総体2014
7月30日～8月3日 山梨県小瀬陸上競技場

今年は2名の選手が全国高校総体に出場することができました。と言っても、本校からの出場は2010年に三段跳で出場した和泉選手以来ですから、4年ぶりとなります。南関東大会には毎年出場できるのですが、そこで6位入賞し全国大会に進むことは、思った以上に難しいと痛感しています。ただし、今回出場した2名はいずれも2年生です。来年があります。今回はそれぞれ悔しさの残る結果となりましたが、来年は今年の反省を踏まえ、決勝進出そして表彰台に立って欲しいと思います。

尾崎 正大（高2） 予選 48秒81

インターハイが終わり早一週間。色々なことを思い出してこの文章を書いています。思い出せばちょうど四年前の今頃、僕は400mを始めました。その時のタイムははっきりとは覚えていませんが、確か70秒くらいだったと思います。その頃と比べて、今の自分は20秒以上も速くなりました。そう考えると、正直自分でもよくここまで成長できたなと思います。

ただ、ここまでの道のりはやっぱり楽ではなかった気がします。400mを全力で走るというだけでも大変だし、どんなレースでも気は抜けませんでした。そして、特に今年は本当に悔しい思いを何度もしました。都総体の400mR、1600mRで皆に悔しい思いをさせてしまったことは、自分の今までの陸上人生の中で一番辛かったです。もう結果は変えられないけど、「あそこでバトンを繋げておけば・・・」「ラスト100mでもう少し粘っていれば・・・」と考えてしまうことが何度もあります。それだけやっぱり悔しかったし、今でもその気持ちが消えることはありません。

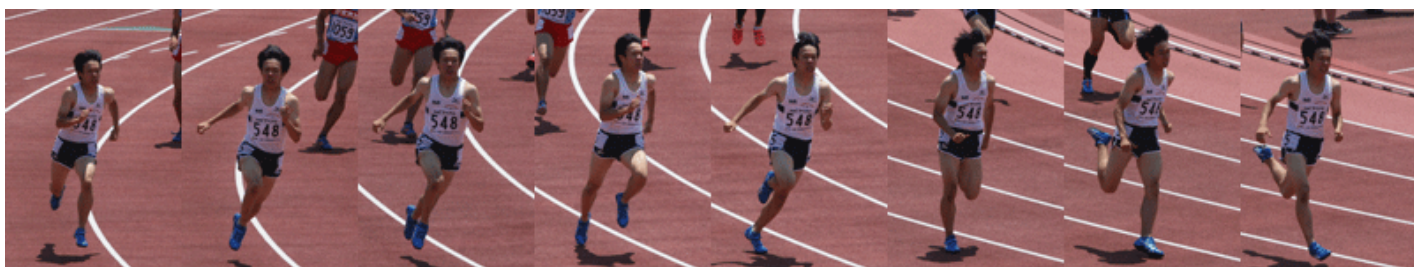


そんな中迎えた南関東大会。決勝に進んだ僕を先輩たちがわざわざ見に来てくれました。そうして勝ち取ったインターハイ出場。これは自分だけのものではないと思いました。常に自分を支え、応援してくれる仲間たちが、こんな素晴らしいものをプレゼントしてくれたんだと僕は思います。桐朋陸上部でなければ、僕はインターハイに進めなかったと思います。

そしてインターハイ。結果は予選落ち。組3着という順位は悪くないけど、あのコンディションの中で自己ベストを更新したり、準決勝に進んだりしている選手がいることを考えれば、この結果は自分の実力不足としか言えません。全国のレベルの高さを痛感しました。

ただ、幸い自分はまだ2年生です。まだチャンスはあります。そのチャンスを逃すのか掴むかは、自分のこれからにかかっていると思います。僕はまだまだこの桐朋陸上部で叶えたい夢がいくつもあります。その夢の一つでも多く叶え、もう悔しい思いをしないように、気を引き締めて再び頑張ります。

最後になりましたが、こんな自分を全力で応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。心から感謝します。



石川 遼（高2）

予選 2m03
決勝 1m98

先日インターハイが終わりました。結果は、決勝には進めたものの、入賞することは出来ませんでした。自分の目標は決勝進出が最低目標だったので、目標達成の満足感と、もっと上を目指せたのではという悔しさが入り混じった、複雑な思いです。

振り返ると、僕は中学の時に全国大会で優勝をしましたが、中学生の最後の頃に肉離れを起こし、跳躍練習がほとんどできませんでした。高校に入学する直前の冬練では、跳躍の感覚を取り戻そうとしていましたが、思うような練習が出来ず、次第に焦り始めました。そのため高校入学後、一年生の頃は思ったような跳躍ができずとても悩み、また早く自己ベストを出さなくてはならないという焦りも感じていました。

思うような跳躍が出来ないのは2年生になった今年も変わらず、5月の都総体は満身に踏み切れない状態で挑みました。そんな状態でしたが、「必ず南関東大会に出てやる」と言う気持ちで不安をかき消そうとしていました。そのため焦りで助走が速くなってしまい、197cmを落としてしまいました。その時点では「6位入賞できずに今年も終わってしまった」と思いましたが、結果的に決戦跳躍にもつれ込み、何とか6位で南関東大会出場を決めました。

南関東大会では、都総体の時のような跳躍、試合展開にしないために先生と話し合い、助走を重点的に練習して臨むことにしましたが、足首の調子が良くなかったので実際の跳躍はできませんでした。従って、自分の跳躍に自信をもって試合に挑むことはできませんでした。そんな中、尾崎がインターハイ出場を決めました。彼の出場を知った時には「自分も行ってやる」と思いましたが、今まで不調だったので焦りもありました。

試合当日は朝から雨が降っていました。僕は雨の中の試合はあまり経験したことが無いので不安でしたが、試合開始頃には晴れてきていました。都総体では自分の跳躍に集中出来ていなかったのが南関東大会では他人の跳躍を極力見ないようにしました。結果、ミスは多かったですがセカンドベストを出すことが出来、2位でインターハイの出場を決めました。



インターハイに向けては、助走のスムーズさを向上するために今まで同様、助走の練習に力を入れました。又、助走練習の最後に一回だけ跳躍を入れることで、少ない本数の中でも最高のジャンプを引き出すような練習をしました。その甲斐もあって、インターハイの予選では一度もバーを落とすことなく跳躍することができたのだと思います。

インターハイの緊張感は今までの大会に比べて桁違いで、威圧感さえありました。しかし試合当日、ウォーミングアップを始めると試合がしたくて堪らなくなりました。ピット内に入り跳躍練習をしていると、自分の体の調子が非常にいいことに気がつき、その後予選が始まると195cm、200cmとミスなく跳べました。203cmは自己最高記録（202cm）よりも高く、跳躍する時にとっても緊張しましたが、なぜかは分かりませんが、絶対に跳べる気がしました。そしてその高さをクリアできた時は、張り詰めていた緊張の糸がやわらぎ、心なしか気分が楽になりました。その後の決勝では予選の時のように自分の跳躍に集中することが出来ず、201cmを落としてしまいました。このようにして今年の僕のインターハイは終わりました。改めて、納得できるようでできないもどかしさが残っています。

なぜ決勝で気が抜けてしまったか？その原因は、設定した目標の位置にあったのだと思います。優勝や入賞を狙っている人にとって、決勝に進むことは目標の通過点に過ぎませんが、自分のように目標（決勝進出）に到達してしまった人間が、その瞬間に再び目標を立て直すことは難しいのだと思います。従って、来年に向けてはどこに目標を置くかが重要になります。来年こそは、インターハイで最後までピッドの中に残ってみたいです。

最後になりますが、応援してくれた同級生、先輩、後輩、先生、ご父兄の方々、本当に有難うございます。自分は多くの人に支えられてここまでくることが出来ました。来年はもっと多くの仲間と共に、インターハイの舞台上で暴りたいです。もう残すところ1年を切りましたが、来年の夏に向って頑張っていこうと思います。

